

宇治市社会福祉協議会

性格及び目的

急速な高齢化・核家族化等の進行により福祉ニーズの増大とその多様化が顕著となりこれへの対応が緊急の課題となっている。また、児童、高齢者、障がい者等についても可能な限り地域社会の中で生活できる環境づくり等を推進していこうという考え方が強まっている。

こうした要求にこたえるため地域社会を基盤とする福祉サービスの総合的な取組みとして「地域福祉の推進」の中核的役割を担っている組織が市町村社会福祉協議会であり、宇治市社会福祉協議会も、市民ぐるみで民間の社会福祉について協議し、宇治市の福祉を推進している組織である。また、市民のみならず、宇治市やその他の福祉関係団体との連携を保ちながら、地域における社会福祉法人との連携・調整役としての役割に従事し、宇治市の福祉を民間の立場で効果的に運営していこうとするものである。

根拠法令等

◇社会福祉法 第109条

事業の目的

I. 第4次宇治市地域福祉活動計画策定を通して今後の地域福祉活動支援を考える

事業の概要および現況

(1) 第4次宇治市地域福祉活動計画の策定

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、ワークショップ等を行うことができないことを鑑み、委員長（大谷大学 志藤修史先生）と協議の上、令和2年度の策定を1年延長することを提案し、書面にて確認した。

宇治市で策定される地域福祉計画においては、共同事務局として会合に参加（令和2年11月11日、12月16日、令和3年3月26日）したほか、当会としてもアンケート調査に協力した。3月の会合には、アンケートの速報値が出されているため、その内容を把握し、計画づくりに活かしていく。

(2) 緊急アンケート「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動状況」の実施

緊急事態宣言が出され、多くの活動が中止、休止を余儀なくされた4月に、緊急アンケート「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動状況」を調査した。本調査は、活動者約250名、当会でかわりのある事業（介護予防普及啓発事業、福祉サービス利用援助事業、学習支援事業）の利用者（世帯）約200名を対象に電話にてアンケートを行った。本調査は、緊急事態宣言を受けて、活動者が「今」何を思っているのかや、利用者の「今」の思いを受けて、今後どのような活動が必要なのかを明らかにし、地域活動支援に役立てていくことを目的としたものである。また、本調査は、地域福祉活動計画に活かすこととして、委員長に助言をいただき実施した。

調査結果は、報告書としてまとめ、理事会評議員会での報告のほか、宇治市にもご協力を得て、市長への報告機会を設けていただいた。また、それを受けて5月には、ふれあいサロンに対して、宇治市共同募金委員会と協働で活動に対する考え方等について、お知らせをしたほか、6月末には、学区福祉委員会に向けて、「人と人とのつながりを絶やさないように～これからの学区福祉員会活動について～」を発信し、コロナ禍だからこそ考えていきたいことを提起した。

報告書は、京都府社会福祉協議会の京都ボランティアバンク助成金を活用し作成した。そして、協力をいただいた団体に配布したほか、ホームページに公開し、広く周知をした。

リンク先 (<https://tinyurl.com/dkwfkref>)

事業の目的

II. 住民参加による地域福祉推進を行い、福祉活動に関わる参加者層を広げる

事業の概要および現況

(1) 学区福祉委員会活動の支援 (全 21 学区、平成 29 年度以前は全 22 学区)

① 各学区福祉委員会への主な事業への支援

補助金名	補助内容
学区福祉委員会等事業費補助金	・事業費補助金A区分：3事業実施分（150,000円）を補助。 ・事業費補助金B区分：1事業実施分（25,000円）を補助。

② 一人暮らし高齢者などの会食・配食活動の支援

補助金名	補助内容
一人暮らし高齢者等給食サービス事業補助金	一人暮らし高齢者等への給食サービス事業実施の福祉委員会に対し、1食あたり350円を材料費の一部として補助。

③ 一人暮らし高齢者などの見守り、声かけ活動の支援

事業名	補助内容
一人暮らし高齢者等訪問事業補助金	一人暮らし高齢者等に対して、月1回以上の訪問活動、生活支援を実施している福祉委員会について、訪問時に配布する記念品等に要する経費として対象者一人あたり年間1,000円を上限に補助。

④ 学区福祉委員会補助金交付状況 (単位：円)

区分	年度				
	28	29	30	元	2
事業費	3,741,778	3,282,619	3,150,000	3,150,000	1,783,397
給食サービス事業	3,115,700	2,941,050	2,900,100	2,775,150	1,595,300
訪問活動事業	1,849,000	1,821,000	1,765,000	1,764,000	1,669,000
合計	8,706,478	8,044,669	7,815,100	7,689,150	5,047,697

⑤ 歳末たすけあい「ふれあい事業」補助金交付について

70歳以上の一人暮らし世帯等を対象にした声かけ活動に際し、見舞品やお弁当など、一人当たり上限1,000円までを補助。その他、会食会、世代交流事業も補助の対象とした。

補助金交付状況 (単位：円)

年度	28	29	30	元	2
補助金額	2,535,469	2,523,261	2,343,870	2,375,893	1,784,998

(2) 学区福祉委員会解散後の木幡地域への関わり、支援

平成 30 年度に開催した懇談会の参加者を中心に、引き続き木幡地域の“いま”や“思い”を語り合う懇談会を 11 回開催し、延べ 98 人の方に参加を得た。

懇談会（開催日、参加者数：事務局除く）

- ① 令和 2 年 6 月 18 日（木） 6 名 ② 令和 2 年 7 月 18 日（土） 6 名
- ③ 令和 2 年 8 月 18 日（火） 6 名 ④ 令和 2 年 9 月 18 日（火） 5 名
- ⑤ 令和 2 年 10 月 12 日（月） 5 名 ⑥ 令和 2 年 10 月 18 日（水） 25 名
- ⑦ 令和 2 年 11 月 18 日（水） 11 名 ⑧ 令和 2 年 12 月 18 日（金） 8 名
- ⑨ 令和 3 年 1 月 18 日（金） 9 名 ⑩ 令和 3 年 2 月 18 日（木） 9 名
- ⑪ 令和 3 年 3 月 18 日（木） 8 名

(3) 学区福祉委員会連絡協議会への支援

学区福祉委員会連絡協議会の事務局として、役員会（年 2 回）・代表者会議（年 2 回）の運営、事業支援、及び運営費助成を行った。

① 研修会

交流研修会の実施（開催日：令和 3 年 2 月 21 日（日） 会場：総合福祉会館 参加者：30 名）

② 学区福祉委員会募集強化月間

令和 3 年 2 月 1 日～3 月 31 日（2 ヶ月間）

ポスター掲示、市政だより・社協だよりでの広報、LINE アカウントの作成

新規加入 33 人、退会 67 人

(4) 住民主体活動への支援・協働

高齢者のみならず、小地域の地域住民による見守り活動に対して、京都府社会福祉協議会の助成金「地域ひとつなぎ事業」での財政面の支援を行った。

地域ひとつなぎ事業

年度	30	元	2
区分			
団体数（団体）	25	22	25
助成金額（円）	592,200	541,500	660,000

(5) ふれあいサロン事業促進

① ふれあいサロン活動費の助成と活動の支援

身近な地域での孤立を防ぎ、日々の支え合いの仲間づくりを進める目的で月 1 回以上開催しているグループを支援している。助成金を必要とするサロンは平成 30 年度からは宇治市共同募金委員会が募集・審査・助成を行っている。

新規立ち上げを検討する地域住民に対し、サロン運営経験者との情報交換の場を提供し、サロン活動を広げるとともに、既存のサロンに対しても情報提供や研修会の開催などの支援を行った。

サロンの登録の推移

（単位：件）

年度	28	29	30	元	2
区分					
登録のみのサロン	13	13	7	8	8
助成金申請サロン	104	106	107	102	96
合計	117	119	114	110	104

② サロン研修会の開催

令和2年度は、コロナ禍での新しいつながり方を学ぶ、Zoomの使い方、活用法の研修会を開催した。(介護予防普及啓発事業「地域参加型B型リハビリ」事業の研修会と合同で実施)

例年と比べ、サロン活動者よりも、一般参加者(これからサロンを始めたい方など)の参加が増えた。

(単位：人)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
参加者	72	61	22	53	19

※ 呼びかけ先は一般市民へも広げて実施。

(6) 宇治ボランティア活動センターへの支援

宇治ボランティア活動センターでは、毎月役員会と運営委員会を定例開催しており、当会事務局からも職員が1名、運営委員として運営に参加し、運営委員間の連絡調整等に協力した。

① 事業内容

- 情報紙「パートナー」発行(奇数月)
- ボランティアマッチングサロンの実施
- 「はじめよう!セカンドライフ」の実施
- 健康長寿サポーター養成講座への協力
- 運営委員研修の実施

※ なお、例年実施している「バリアフリー上映会」及び「ボランティアフェスティバル&おもしろい駅伝」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

② ボランティア相談件数の推移

(単位：件)

年度	28	29	30	元	2
相談件数	211	173	200	189	227

※ ボランティア活動センター担当職員によるボランティア相談件数をカウント

(7) 宇治市災害ボランティアセンターの運営(平常時)

災害に対して円滑な災害ボランティア活動を行い復旧に努めると共に平常時における防災、減災、災害ボランティア活動への意識向上を推進に努めている。構成団体数：81(正会員)。

事業内容

- 総会(書面での決議とし、令和2年6月に案内し、全団体から同意を得た)
- 運営委員会(年2回)の開催
- 広報、普及啓発活動：随時
- 運営委員研修1回
- 京都府災害ボランティアセンターへの協力：年8回

(8) 在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

宇治市の委託を受けて実施。要介護や要支援の認定を受けている人を在宅で介護している家族等を対象とし、介護者のリフレッシュを目的とした当事者交流事業を開催した。交流会およびレクリエーションを企画し、実施した。

参加者数		(単位：人)				
区分	年度	28	29	30	元	2
花束贈呈		518	—	—	—	—
介護者交流 1		65	16	(交) 9	(レ) 12	(レ) 未実施
介護者交流 2		37	13	(レ) 6	(レ) 13	(交) 中止
介護者交流 3		—	—	(レ) 23	(交) 6	(レ) 11
介護者交流 4		—	—	(レ) 21	(レ) 10	(交) 6
介護者交流 5		—	—	(レ) 8	(レ) 9	(レ) 10
介護者交流 6		—	—	(交) 10	(交) 6	(交) 7

※ 花束贈呈については、平成 29 年度より宇治市直営で実施

※ (交) は交流会、(レ) はレクリエーション

(9) 生活支援体制整備事業の実施

宇治市の委託を受けて実施。地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するために、生活支援コーディネーター業務及び協議体（「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」）を設置。事業実施に当たっては、第 1 層協議体戦略会議、生活支援体制整備事業事務局会議において宇治市、宇治市福祉サービス公社と情報共有と協議を行っている。

① 生活支援コーディネーターの設置

第 1 層 3 名（他に福祉サービス公社 2 名）

第 2 層 2 名（第 1 層と兼務）

② 会議

事務局会議 5 回、戦略会議 1 回

③ 宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（開催日、場所、参加者（関係者含む））

第 1 層：ア 令和 2 年 8 月 6 日（木）、総合福祉会館、33 名

イ 令和 3 年 3 月 12 日（金）、総合福祉会館、31 名

第 2 層：令和 2 年 9 月 17 日（木）、槇島地域福祉センター、40 名

④ その他（小地域包括ケア会議他の参加等） 8 回

(10) 一般介護予防事業 介護予防普及啓発事業「B型リハビリ教室」の実施

宇治市からの委託事業。地域の住民同士が共に、体操、レクリエーションのプログラムを通じて、介護予防を進めるための教室を開催している。より多くの市民の方に利用していただき、また、活動を支えるボランティアとして参加いただけるように、啓発活動を行った。

① 開催回数と利用者・ボランティア延数

区分	年度	28	29	30	元	2
開催回数（回）		832	837	817	744	609
利用者延人数（人）		6,448	6,334	6,271	5,259	3,163
ボランティア延人数（人）		10,128	10,149	9,935	8,774	5,426

② ボランティア研修会

(単位：人)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
1回目 参加者数	53	52	54	57	26
2回目 参加者数	36	48	55	53	15
3回目 参加者数	ア 30 イ 66	29	40	35	24
4回目 参加者数	72	61	22	53	19

※ 平成 28 年度は第 3 回目の内容を 2 回、開催しました。

(11) 宇治福祉まつり検討委員会の設置

令和元年度に福祉まつりの中止を決定した際に、30 年以上続くイベントの中での成果を見直し、時代に即した実施、「協働」と「参画」を促進していくことでより一層の地域福祉の推進につながっていくものをめざしたイベントのあり方を検討する委員会として「宇治福祉まつり検討委員会」が設置された。

特に令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、多くの地域での行事イベントが中止を余儀なくされてきた。従来の宇治福祉まつりは、多くの来場者が楽しめる催しが中心であり、「三密」を避けることができないものであった。会合も緊急事態宣言を受けて見送られ(令和 2 年 4 月 27 日)、1 回の実施(令和 2 年 12 月 1 日)になったが、対面とオンラインでの併用会議を行う中で、少人数でも「一堂に会する」ことが困難な状況にあることがわかった。その結果、新型コロナウイルス感染症の様子を見ながらの検討が必要になることを踏まえ、令和 3 年度も宇治福祉まつりは実施をせず、事務局から時機を見て再度協議の場を持つことになった。

宇治福祉まつり参加団体数

参加団体(団体)	年度	28	29	30	元	2
	区分					
	福祉の店	34	33	34	37	
	ステージ発表	14	10	14	13	
	展示コーナー	27	23	23	26	
	相談コーナー	16	19	24	22	
	子ども広場	6	6	6	6	
	スタンプラリー	10	9	9	8	
	オープニング※	17	18	20	21	

※ オープニングは 30 秒アピールを行った団体数をカウント。

(12) 京都文教大学との連携によるボランティア活動の促進(京都文教大学委託事業)

平成 23 年度より京都文教大学から「ボランティア演習」科目の業務委託を受け、大学生のボランティア活動のきっかけづくりを始めた。

令和 2 年は、春学期には、新型コロナウイルス感染症の影響により授業が中止となり、秋学期には、5 名の履修登録があり、5 名の単位認定を行った。

履修生の推移

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
春学期(人)	17(16) ※	5	10	12	中止
秋学期(人)	12	6	14	3	5
合計	29	11	24	15	5

※ 履修登録者としては 17 名だが、単位認定を行ったのは 16 名。

(13) 中学生と赤ちゃんのふれあい交流事業

おおむね首が座った頃からよちよち歩きが始まる頃までの赤ちゃんとお母さんが「赤ちゃんボランティア」として中学校を訪れ、3年生と交流をはかる授業。中学生の質問に答えながら命の大切さについて伝えたいと同時に親子の社会参加の機会にもつながっている。本会ではボランティア募集、調整、当日サポート、実施後のフォローを行っている（年により、インフルエンザの流行等で中止になっている学校あり）。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、各中学校での開催は全て中止となったが、赤ちゃん交流事業に参加できなかった3年生に対して、NPO法人子育てを楽しむ会の事業に参加されている方や子育て事業を行っているスタッフからの卒業を祝う一言メッセージを集めて、赤ちゃん交流を予定していた中学校に贈呈を行った。

① 実施校

東宇治中学校（平成16年度～）、宇治中学校（平成22年度～）、南宇治中学校（平成24年度～）
 榎島中学校（平成25年度～）、黄檗中学校（平成26年度～）、西宇治中学校（平成28年度～）

② 「赤ちゃんボランティア」協力者数

年度	28	29	30	元	2
組数（組）	271	242	287	313	中止
実施校（校）	東宇治、宇治、南宇治、榎島、黄檗、西宇治 計6校	東宇治、宇治、榎島、黄檗、西宇治 計5校	東宇治、宇治、黄檗、南宇治 計4校	東宇治、宇治、榎島、黄檗 計4校	中止

※ 延べ赤ちゃんボランティア数

(14) 新春福祉のつどいの開催

地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、当会会長表彰及び感謝状を贈呈した。令和3年1月30日に開催を予定していた新春福祉のつどいに関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。そのため、当会会長表彰の表彰式典及び地域福祉課題の提起のための講演会は中止し、当会会長表彰及び感謝状は記念品とともに受賞者（表彰状69名、感謝状3団体2名）へ送付した。

参加者数 (単位：人)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
来賓	37	34	34	38	0
被表彰者	79	76	88	48	69
一般来場者・スタッフ	215	225	195	206	0
合計	331	335	317	292	69

※ 被表彰者数は当日欠席者含む。来賓・一般来場者・スタッフは当日の実参加者数。

(15) 子育て世代への働きかけと地域福祉活動へのきっかけづくり

NPO法人と連携して、1歳になるまでの子どもを持つ親同士の仲間づくりや情報交換の場として、「赤ちゃんサロン」・「赤ちゃん広場」・「赤ちゃんパーク」をそれぞれ年9回実施した。参加者の気持ちをほぐすプログラムの後、交流を促すフリートークの時間を設けるほか、小グループでのおしゃべりタイムを設けるなど、参加者が交流しやすくなるような工夫をしている。

また、子育て中の親の悩みに応じた当事者同士の出会い、相談の場として「おしゃべりキャッチボール」をテーマごと（①子どもの発達に不安や悩みのある親 ②アレルギーのある子どもを持つ親 ③多胎児を育てる親）で年2～4回実施した。

① 年間延べ参加者数の推移

(単位：延べ組数)

区分	年度	28	29	30	元	2
赤ちゃんサロン（妊婦婦～生後4か月）		111	120	89	70	47
赤ちゃん広場（生後5か月～8か月）		205	158	165	104	88
赤ちゃんパーク（生後9か月～12か月）		151	100	168	95	97
おしゃべりキャッチボール（人）		192	119	57	73	64

② 子育てサークルなどへの情報提供および広報

総合福祉会館に常設している子育て情報コーナーで各種情報の発信の場を提供した。

(16) 宇治市老人福祉センターサークル協議会への支援

宇治市老人福祉センターサークル協議会（USK）の運営支援を通じ、高齢者の生きがいをづくりと社会参加の機会の提供を行った。

① 事業内容

- シルバーウェルネス舞台発表大会（新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため中止）
- シルバーウェルネス展示発表大会（新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため中止）
- クリーン運動（新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため中止）
- 管外研修（新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため中止）

② 老人福祉センターサークルの推移

区分	年度	28	29	30	元	2
サークル数（サークル）		19	20	22	20	20
登録人数（人）		366	400	420	392	384

(17) 身体障害者デイサービス事業（作業型）の実施

身体に障がいがある方の自立と社会参加促進を目指し、地域生活支援事業としてコーラスやヨガなど7教室を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言のため、福祉会館が休館となったことを受け、事業を中止したが、7月からは、利用時間の短縮、各部屋の定員、消毒など感染予防対策を講じた上で再開した。

事業実施状況

区分	年度	28	29	30	元	2
利用者数（人）		695	700	564	516	427
教室回数（回）		164	147	137	112	90

(18) 身体障害者移動支援事業の実施

車いす利用者の外出支援を目的に、移動支援サービス事業としてガイドヘルパーの派遣を行った。

事業実施状況

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
ヘルパー登録者数 (人)	30	31	9	8	8
利用登録者数 (人)	16	14	13	11	10
調整件数 (件)	277	230	230	190	120
派遣実施数 (件)	264	215	204	165	103

※ ヘルパー登録者数は、平成 30 年度から実際に稼働したヘルパー数に変更

(19) 福祉活動拠点の整備と活用

丸紅基金社会福祉助成事業に応募し、「地域福祉活動拠点の整備」として事業採択を受けた。12 月 17 日にリモートによる贈呈式にて 155 万円の助成金を受けた。コロナ禍の影響もあり、年度内の拠点改修には至らなかったが、利用予定団体と工事請負企業と現場で改修打合せを行い、図面を作成いただいた。助成期間中の令和 3 年度に着工し、改修を行う予定。

事業の目的

Ⅲ. 各種相談から生活課題を把握し解決を図ります

事業の概要および現況

(1) 各種相談事業の実施

市民のさまざまな困りごとと悩みごとを、気軽に持ち込める相談窓口として、「ふれあい福祉センター」を設置し、一人ひとりが自分の悩みを解決できるよう、各種相談事業を実施した。法律相談については、相談者数を平成 30 年度から 1 日 10 名上限から 8 名上限へ変更した。

ふれあい福祉センター相談実施状況と推移

(単位：件)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
福祉なんでも相談	190	230	98	258	157
法律相談	404	386	359	363	332
登記相談	115	105	139	105	97
年金・社会保険相談	3	3	4	7	6
多重債務相談	18	9	24	17	13
成年後見相談	13	9	9	11	3
合計	743	742	633	761	608

(2) 各種資金貸付等の実施

① 生活福祉資金に関する貸付相談・資金貸付

生活福祉資金は、低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯に対して、暮らしていく上で一時的に資金が必要になった場合、当該世帯の経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めるようにすることを目的に低利で資金を貸し付けた。

(単位：件 [千円])

区分	年度	28	29	30	元	2
	総合支援資金	生活支援費	0	0	0	0
	生活支援費 (増額)	0	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0
	住宅入居費	0	0	0	0	0
	臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0
福祉資金	生業	23 [5,985]	23 [8324]	15 [10,859]	10 [1,845]	2 [260]
	技能習得	—	—	—	—	
	療養・介護等	—	—	—	—	
	住宅	—	—	—	—	
	一般福祉	—	—	—	—	
	緊急小口	12 [1,130]	12 [1,030]	2 [183]	3 [300]	3 [300]
教育支援 資金	教育支援	65 [17,853]	52 [16,972]	61 [32,033]	45 [15,601]	24 [8,932]
	就学支度	62 [29,327]	47 [22,282]	54 [19,795]	38 [14,357]	22 [9,114]
	不動産担保型 生活支援資金	0	0	1 [11,844]	0	0
	合計	162 [54,295]	134 [48,608]	133 [74,714]	96 [32,103]	52 [19,026]

② 生活福祉資金特例貸付に関する貸付相談・資金貸付

新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により、生活資金にお悩みの世帯に対し必要な生活費用等の貸付を実施した。これは通常の40倍以上の件数となっており、特にスピーディーな対応が求められた。当会に寄せられた相談のうち市内1,407/84,678世帯(約1.66%)が緊急小口資金の貸付決定となっている。うち、約73%が引き続き総合支援資金を申込み、さらに、その74%は3か月間の期間延長の決定に至っている。

(単位：件 [千円])

資金種別	年度	2
緊急小口資金		1,407 [275,980]
総合支援資金		1,028 [561,760]
総合支援資金(延長)		757 [414,560]
総合支援資金(再貸付)		224 [124,500]
合計		3,416 [1,376,800]

③ 暮らしの資金に関する貸付相談・資金貸付

※ 宇治市からの受託事業。詳細は、「暮らしの資金貸付事業（委託）（地域福祉課）」を参照。

ア 資金貸付状況

(単位：件 [千円])

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
夏期貸付件数 (貸付金額)	10 [1,000]	8 [750]	8 [730]	6 [600]	14 [1,400]
年末貸付件数 (貸付金額)	16 [1,600]	14 [1,400]	14 [1,350]	9 [880]	23 [2,250]
合計貸付件数 (貸付金額)	26 [2,600]	22 [2,150]	22 [2,080]	15 [1,480]	37 [3,650]

イ 資金貸付事由

(単位：件)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
生活費	16	18	20	13	35
医療費	3	1	0	2	1
借金返済	1	0	0	0	0
失業	4	1	0	0	0
交通事故	0	0	0	0	0
養育	0	0	0	0	0
その他	2	2	2	0	1

(3) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）の実施

福祉サービスの利用方法や日常生活上の手続きの援助、金銭管理などをすることが一人では不安な高齢者・障がいのある方に、生活支援員が定期的に訪問し援助を行った。

① 契約者数・終了・解約者数

(単位：人 カッコ内は生活保護受給者数)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
新規契約者数	10 (6)	10 (5)	13 (5)	12 (6)	23 (7)
終了・解約者数	6 (2)	7 (5)	14 (10)	9 (7)	9 (3)
年度末利用者実数	41 (25)	44 (26)	43 (18)	46 (17)	60 (20)

② 相談調整等の件数の推移

相談・連絡調整活動の実施状況

(単位：回)

	認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	合計
平成 28 年度	1,105	379	3,834	13	5,331
平成 29 年度	952	280	3,245	5	4,482
平成 30 年度	297	270	1,965	7	2,539
令和元年度	825	477	2,600	4	3,906
令和 2 年度	1,379	709	2,866	43	4,997

③ 支援員交流会の開催

生活支援員の研修と相互交流を図るための「お茶会」(交流会)は、コロナ禍により中止とした。

④ 山城北中部広域社協合同講座の実施

山城北中部の7市町社協(宇治市・城陽市・久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町)と京都府社協との協働にて、視察研修及び生活支援員向けの講座と意見交換会を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためZOOMで事例検討や情報共有を行った。

合同会議：令和2年9月29日(火)・10月30日(金)・11月27日(金)

令和3年1月29日(金)・3月23日(火) (2月26日は欠席)

総合福祉会館(ZOOMにて参加)

(4) 宇治市共同募金委員会の助成相談、団体への活動支援

本会に寄せられた情報、相談から、各種団体とのつなぎを行った。

当事者団体や、当事者の声、意見を聞き、課題解決のために活動をしている団体へ宇治市共同募金委員会と連携協働して支援をした。

共同募金配分事業

赤い羽根コラボ助成金

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
助成団体数(団体)	34	40	41	42	38
助成事業数(事業)	75	84	83	90	79
助成決定額(円)	3,235,000	3,637,000	3,481,000	3,448,000	3,263,000

※ 平成29年度まで宇治市社会福祉協議会が募集・審査・助成を行っていた。

(5) 宇治市地域共生社会推進事業の実施

宇治市福祉未来基金を財源にした補助を受け、地域共生社会推進事業を実施した。当事者の声に寄り添うことを念頭に、ひきこもり当事者、当事者家族、支援団体との現状の聞き取りを行った。また、財政面の支援として「公募型地域福祉活動支援助成金」として、①子どもの貧困、②ひきこもり、③地域福祉活動の担い手確保を対象とする事業に対して、2団体に計300,000円の助成金を交付した。

(6) 学習支援事業 ～うじピヨンの学び舎～ の実施

平成29年度7月より、中学校1年生から3年生の宇治市が適当と求めた生徒を対象に、原則週2回の学習支援を実施した。主に大学生の学習支援員を募集し、実施している。

実施状況の推移

年度	29	30	元	2
開催回数(回)	75	100	95	92
生徒人数(延べ数)(人)	612	830	712	649
学習支援員(延べ数)(人)	295	402	327	323

(7) 一人親家庭の新入学児童や交通遺児に対するの激励金の給付

① 新入学児童への祝い金の贈呈

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
金額 (円)	110,000	70,000	60,000	65,000	85,000
人数 (人)	22	14	12	13	17

② 交通遺児への見舞金の贈呈

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
金額 (円)	5,000	0	0	0	0
人数 (人)	1	0	0	0	0

事業の目的

IV. 法人運営の強化と財源づくりの強化に努めます

事業の概要および現況

(1) 市社協の組織運営

法人を運営していくために、理事会、評議員会の他、正副会長会（年7回）、監査（年1回）、評議員選任・解任委員会（年1回）を適時開催した。

理事会・評議員会 開催状況 (単位：回)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
理事会	7	7	8	6	4
評議員会	5	3	3	3	3

(2) 会員募集の増強

法人の運営、事業の推進を図る財源確保のために会員募集を、学区福祉委員会、町内会・自治会の協力を得て行った。

会員（会費）等実績 (単位：円)

区分 \ 年度	28	29	30	元	2
住民会費	9,535,500	9,261,000	8,724,500	8,537,000	8,450,500
賛助会費	220,500	233,769	150,572	210,667	104,644
事業所会費	954,000	972,000	948,500	888,000	301,000
団体会費	563,800	594,000	534,901	544,600	399,908
施設会費	305,000	295,000	308,000	306,000	306,000
特別賛助会費	956,139	873,800	784,900	549,500	458,000
寄付金	1,780,015	1,726,803	1,539,775	1,422,592	1,225,064
合計	14,314,954	13,956,372	12,991,148	12,458,359	11,245,116

(3) 宇治市共同募金委員会の運営と赤い羽根共同募金運動、歳末助け合い募金運動への参画

宇治市共同募金委員会の事務局として、運営委員会（4回開催：対面2回、8月12日、3月10日及び書面審議2回）を開催し、募金運動について協議した。毎年開催している募金推進会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による報告（1回）を行った。

また、集められた募金配分の透明性を図るために、配分内容を審査する審査委員会（対面2回、6月26日、2月25日及び書面審議1回）を開催した。

① 共同募金運動の取組み実績（内訳）

（単位：円）

年度 区分	28	29	30	元	2
戸別募金	8,497,342	8,034,683	7,594,790	7,451,990	7,102,267
グループ募金	1,868,801	1,730,695	1,779,794	1,898,192	1,658,814
街頭募金	398,375	354,649	265,064	260,286	16,220
資材募金	738,000	707,000	786,500	731,000	736,000
学校募金	135,898	168,891	89,083	142,142	49,889
個人募金	31,976	83,968	86,214	122,014	116,173
その他	339,832	314,989	75,982	187,954	118,522
合計	12,010,224	11,394,875	10,677,427	10,793,578	9,797,885

※ その他には、京都府共同募金会扱いの募金や繰越金を含む。

② 歳末たすけあい募金運動の取組み実績（内訳）

（単位：円）

年度 区分	28	29	30	元	2
戸別募金	8,041,130	7,540,084	7,374,123	7,214,135	6,734,784
その他	196,839	359,761	538,004	194,328	120,800
合計	8,237,969	7,899,845	7,912,127	7,408,463	6,855,584

③ 募金の配分

宇治市社会福祉協議会への配分（広報紙作成、福祉まつり、子育て事業他）の他、赤い羽根コロナボ助成、Hot!ふれあいサロン助成を通じて、福祉団体・サークル等の活動支援を行った。

(4) 1㎡でできる社会貢献（自動販売機設置事業）の推進

企業の社会貢献を進める観点から法人や事業所等のご理解を得ながら、飲料用自動販売機の設置を進め、その収益を地域福祉活動・ボランティア活動の拡充に活用した。

年度	28	29	30	元	2
設置台数（単位：台）	14	18	23	20	20
収益実績額（単位：円）	1,076,919	1,715,830	2,058,687	2,224,797	2,175,749

(5) 寄付金の受け入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」「災害時支援活動準備金」の適正運用

皆さんからの寄付の受け入れ及び「ふれあい基金」「ボランティア基金」の運用による財源確保に努めた。

① ふれあい基金

(単位：円)

年度 区分	28	29	30	元	2
寄附件数 (件)	22	18	15	15	28
寄附金額	56,956,872	1,075,237	903,303	494,498	510,243
基金積立額	48,435,232	21,564,757	2,010,298	1,993,936	1,609,312
基金取り崩し額	9,767,880	7,335,000	0	0	0
年度末基金保有額	180,734,938	194,964,695	196,974,993	198,968,929	200,578,241
運用益	326,135	1,019,830	889,163	703,807	561,506

※ 基金保有額のうち、50,000,000円は宇治市からの補助。

② ボランティア基金

(単位：円)

年度 区分	28	29	30	元	2
年度末基金保有額	121,788,928	121,788,928	121,788,928	121,788,928	121,788,928
運用益	132,150	317,049	319,042	274,670	266,814

※ 基金保有額のうち、50,000,000円は宇治市からの補助。

(6) 多角的な広報の展開

多角的な広報活動として下記の通り取り組んだ。

- ① SNS (Twitter、facebook) の活用
- ② ホームページの運用
- ③ 洛タイ新報との連携による新聞を活用した広報「月イチ・うじピョンの^{まるまる}な話」の掲載
- ④ 広報紙「社協だより」の発行 (年3回発行)

(7) 宇治市総合福祉会館の管理運営 (指定管理)

宇治市総合福祉会館 (身体障害者福祉センター、老人福祉センター、福祉センター) は、市の地域福祉推進の拠点施設として、多くの市民や団体に利用されている。(利用状況は別掲)

組織・機構

員	住民会員	(会費 1口 : 500円)
	賛助会員	(同上 1口 : 500円)
	特別賛助会員	(同上 1口 : 10,000円)
	事業所会員	(会費 1口 : 3,000円)
	団体会員	(同上 1口 : 3,000円)
	施設会員	(同上 1口 : 5,000円)

評議員	1号 (住民代表機関・団体)	13名
	2号 (福祉専門機関・団体)	11名
	3号 (当事者団体)	8名
	4号 (関連分野機関・団体)	6名
	5号 (知識経験者)	2名
40名		

京都府共同募金会
宇治市共同募金委員会
会長 宇治市長

理事 15名	会長	1名
	副会長	3名
	常務理事	1名
	理事	10名

監事 2名

